

参考資料8. モデル商店街事業候補に関連する事例

モデル商店街事業候補の中で、10の事業について関連する事例を調査した。

モデル商店街事業候補		調査した事例
方向性1： 地域の生活者に寄り添うサービス交流の場	1) 空き店舗などを活用した公益的機能(休憩所・情報拠点など)の整備	品川宿おばちゃんち(品川区北品川)
	2) 託児所や児童館などの子育て支援サービスの商店街への誘致	エコー仲見世商店街・キッズベースキャンプ(世田谷区三軒茶屋)
	3) 専門性を持った診療所・介護サービスの商店街への誘致	東京先端医療モールビル(北区滝野川)
方向性2： 新しい産業や新しい業種・業態が育まれる場	4) 地方や外国の商店・飲食店などのアンテナショップの商店街への誘致	ハッピーロード大山商店街振興組合「とれたて村」(板橋区大山)
	5) 大田区の町工場が手がけた製品のショールームの設置	一般社団法人・大阪ものづくり観光推進協会(東大阪市)
	6) 創業・企業家等の活動拠点の商店街への誘致	札幌市大通まちづくり株式会社「ドリノキ」(札幌市)
方向性3： 羽田空港等を利用する海外旅行者等を集客し交流する場	7) 大田区内の観光資源を巡るツアーの開発	地元を愛する人が案内する体験プログラム「OSAKA 旅メガネ」(大阪市)
	8) 日本文化や大田区の魅力の理解を促す体験プログラムの提供	千代田区秋葉原駅周辺商店街「秋葉原新発見ツアー」(千代田区)
	9) 外国語によるまちや店舗の情報提供	AR 技術を用いた舟運活性化説明アプリの開発(大阪市)
	10) 旅行者やビジネスマン向けの滞在施設の整備	Nui HOSTEL & BAR LOUNGE(台東区蔵前)

1) 空き店舗を活用した公益的機能（休憩所・情報拠点など）の整備

参考事例：品川宿おばちゃんち(品川区北品川)

- ・「NPO 法人ふれあいの家-おばちゃんち」が運営する地域の交流施設で、品川商店街にある空き店舗を活用しており、入口付近がコミュニティカフェ、その奥が預かり保育「ほっぺ」のスペースとなっている。
- ・世代を越えて、誰もが集うことができる居場所づくりを支援し、推進するセンターとして活動しており、現在の施設を運営することに加えて、同様の交流施設を他地域において設置する活動の支援も行っている。

品川宿おばちゃんちの様子（左：店舗の外観・右：預かり保育ほっぺの様子）



(出所) NPO法人ふれあいの家-おばちゃんちホームページ



2) 託児所や児童館などの子育て支援サービスの商店街への誘致

参考事例：エコー仲見世商店街・キッズベースキャンプ(世田谷区三軒茶屋)

- ・エコー仲見世商店街は、三軒茶屋の中でも古くからある商店街で、昭和レトロな雰囲気が漂い、地元に住んでいる子どもたちも入ったことがないお店が多かった。
- ・そこで、商店街と学童保育を手がける「キッズベースキャンプ」が連携し、子どもたちが自分の関心があるお店を取材した上で、商店街マップを作成、お世話になって商店街の人にプレゼントをしにいく取り組みを実施している。

キッズベースキャンプの子どもたちによるエコー仲見世商店街の取材の様子



(出所) 株式会社キッズベースキャンプ提供写真



3) 専門性を持った診療所・介護サービスの商店街への誘致

参考事例：東京先端医療モールビル(北区滝野川)

- ・JR板橋駅、都営線西巣鴨駅から徒歩 10 分程度の商店街の中にある東京先端医療モールは、2012 年 4 月にオープンした。東京メディカルクリニックのほか、眼科、整形外科、小児科、歯科、調剤薬局があり、赤ちゃんからお年寄りまで地域の人たちの健康を守り続ける医療拠点である。
- ・モールに入居している各診療所は、もともと滝野川地区に個別に診療所を有していたが、「東京先端医療モールビル」の竣工にあわせて、診療所を移転している。

東京先端医療モールビルの入居テナント



(出所) 東京先端医療モールホームページ

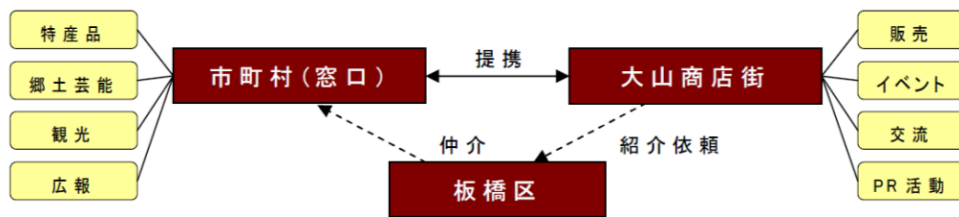


4) 地方や外国の商店・飲食店等のアンテナショップの商店街への誘致

参考事例：ハッピーロード大山商店街振興組合「とれたて村」(板橋区大山)

- ・板橋区のハッピーロード大山商店街振興組合の直営ショップ「とれたて村」は、商店街と農山漁村との交流による双方の活性化を目指し、2005年10月に板橋区の肝いりでスタートした。全国市町村へ参加を呼びかけ、商品販売やイベント開催などで市町村の魅力を集客に利用させてもらうと同時に、販路拡大や交流促進など参加市町村のニーズの充足を支援している。今年で開店9年目に入り、現在全国の15市町村と直接契約を結んでいて、新鮮なとれたて野菜や、各地の特産品等を販売している。
- ・「とれたて村」の事業では、特産品販売だけにとどまらず、提携市町村との幅広い交流を促進し、イベントや現地を訪問する事業も展開しながら、商店街に新たな魅力を創出している点が特徴である。

ハッピーロード大山商店街「とれたて村」の事業スキーム



「とれたて村」における商店街と地方市町村との提携の仕組み



生産者の「顔の見える」商品の販売

参加市町村による「ふるさとイベント」の開催

産地訪問・交流体験ツアーの実施

(出所) 経済産業省「街元気」サイト



5) 大田区の町工場が手がけた製品のショールームの設置

参考事例：一般社団法人・大阪ものづくり観光推進協会(東大阪市)

- ・「東大阪の高い技術力が観光資源になるのでは」と、地元企業や JTB 西日本などが、2012 年 4 月に「一般社団法人・大阪ものづくり観光推進協会」を設立した。
- ・同財団は工場見学の仲介などを手がけ、見学受け入れ工場も 40 社にのぼる。2013 年度は年間で 7,000~8,000 人が、同財団がアレンジしたツアーに参加しており、ツアー参加者は中学・高校のほか、企業や自治体の研修等での利用もある。

一般社団法人・大阪ものづくり観光推進協会のホームページ

(出所) 一般社団法人・大阪ものづくり観光推進協会ホームページ



6) 創業・企業家等の活動拠点の商店街への誘致

参考事例：札幌市大通まちづくり株式会社「ドリノキ」(札幌市)

- ・「様々な人たちが集い、異業種同士でコミュニケーションをすることで、新しいアイデアを生みだし、ノウハウを共有し、コラボレーションを活性化していく」という考え方のもと、遊休不動産（空きテナント）を活用して、まちなかでの新しい働き方を提案する「コワーキングスペース・ドリノキ」として、2012年6月にオープンした。
- ・会員制の「ブースエリア」「フレックスエリア」と、一般開放（時間制・有料）をしている「レクチャールーム」の2種類を用意している。

コワーキングスペース・ドリノキの様子



(出所) 札幌市大通まちづくり株式会社ホームページ



7) 大田区内の観光資源を巡るツアーの開発

参考事例：地元を愛する人が案内する体験プログラム「OSAKA 旅メガネ」(大阪市)

- ・地元住民が企画し案内する着地型観光プログラムを通じて、大阪の真の魅力を再発見し、地域と参加者との交流機会を創出している。
- ・通常の観光ツアーとは異なり、地域の暮らしに根ざしたリアルで新鮮な大阪のイメージをつくること、地元の生活者自らがわがまちの魅力を発見し、外からの来訪者とふれあう仕組みをつくること、そして、地元を愛する人の中からプロのガイドであるまちの案内人を輩出していくことを目的としている。

※着地型観光とは・・・従来の旅行会社を中心とした「発信型」の観光とは異なり、旅行先の地域が主体となって、地域の良さをアピールし、旅行プランなどを組立、集客につなげようとする観光形態

地元を愛する人が案内する体験プログラム「OSAKA 旅メガネ」のコンセプト



大阪人も楽しめる、目の付けどころが違う大阪ツアー。

大阪には定番と呼ばれるコテコテの観光地以外にも、個性ゆたかなオモシロイまちがたくさん。

そう、大阪の顔は、ひとつじゃないんです。

「OSAKA旅めがね」はそこに“目”をつけて、大阪人も思わず「！」とびっくりするような“目”新しい大阪を厳選してご案内します。



(出所)「OSAKA旅メガネ」ホームページ



8) 日本文化や大田区の魅力を促す体験プログラムの開発

参考事例：千代田区秋葉原駅周辺商店街「秋葉原新発見ツアー」(千代田区)

- ・従来から外国人観光集客を事業の柱に据えてきた秋葉原駅周辺商店街では、地元大企業や文化施設、教育機関などにも呼びかけて、2006年9月に「NPO法人秋葉原観光推進協会」を発足させ、外国人観光客向けの英語による「秋葉原新発見ツアー」を展開している。
- ・2007年7月からは「秋葉原新発見ツアー」を毎週土曜日に通年化したところ、最新電化製品店やアニメやゲーム関連施設などを巡るコースに、海外からインターネット経由で続々と申し込みが寄せられている。

日本のポップカルチャーを題材にした「秋葉原新発見ツアー」



(出所) NPO法人秋葉原観光推進協会

9) 外国語によるまちや店舗の情報提供

参考事例：AR技術を用いた舟運活性化説明アプリの開発(大阪市)

- ・AR（拡張現実）機能を用いたアプリ機能を備えており、水都大阪の象徴である水の回廊をクルーズ船で体験頂いたときに、周辺観光スポットの魅力を、アプリが多言語で説明する。
- ・これにより、海外からのお客様がクルーズ船に乗られた際に、日本語しか話ができないスタッフがいた場合も、言葉の障壁を低くすることができる。

※AR（拡張現実）機能とは・・・現実環境にコンピュータを用いて情報を付加提示する技術で、例えばAR（拡張現実）機能を搭載したスマートフォンアプリを活用することで、携帯電話を通じて、外国語での案内を含めた町の情報等を伝えることができる。

クルーズ船・乗船時に周辺観光スポットの案内を行うスマートフォンアプリ



今回、開発いたしましたAR機能搭載のアプリを利用して、水の回廊を楽しんでいただきますと、左のようにその場所から見える風景がマンガのように加工され、そこに多言語で観光地の紹介が出てきます。

(出所) 水都大阪パートナーズ・ホームページ



10) 旅行者やビジネスマン向けの滞在施設の整備

参考事例: Nui HOSTEL & BAR LOUNGE(台東区蔵前)

- ・(株)バックパッカーズジャパンは、台東区蔵前で玩具店の空き倉庫を改装した外国人バックパッカーズ向けのゲストハウスとバーラウンジを運営している。
- ・1階のバーラウンジは宿泊者以外の人でも立ち寄れる開放的な空間となっており、夜はライブ等のイベントスペースとしても活用することができる。

Nui HOSTEL & BAR LOUNGE の1階バーラウンジの様子



(出所) 株式会社バックパッカーズジャパン・ホームページ

